

令和 7 年度

県営都市公園 外部評価結果報告書

令和 8 年 3 月

静岡県都市公園懇話会 外部評価委員会

外部評価の対象とする県営都市公園

区 分	面積 (ha)	供用開始日	指定管理者
静岡県草薙総合運動場	26.4	S38.4.16	東京ドーム・東急・静鉄共同事業体
遠州灘海浜公園	20.3	S63.10.9	天龍造園建設グループ
愛鷹広域公園	19.4	H 1.7.16	あしたかスポーツ&ネイチャーパートナーズ
静岡県富士山こどもの国	94.5	H11.4.26	小泉アフリカ・ライオン・サファリ(株)
小笠山総合運動公園	269.7	H13.5.10	静岡県サッカー協会グループ
吉 田 公 園	14.3	H13.8. 1	特定非営利活動法人しずかちゃん
浜名湖ガーデンパーク	34.6	H17.6. 5	浜名湖えんてつグループ

目 次

外部評価の実施	1
令和7年度 実施内容	1
令和7年度 7公園9段階評価ポイント	2
1 静岡県草薙総合運動場	4
2 遠州灘海浜公園	9
3 愛鷹広域公園	14
4 静岡県富士山こどもの国	18
5 小笠山総合運動公園	22
6 吉田公園	26
7 浜名湖ガーデンパーク	30

外部評価の実施

静岡県では、都市公園の指定管理者制度への移行に当たり、指定管理者の業務状況を確認するだけでなく、業務自体が公園の設置目的の達成に貢献しているかを客観的に評価するため、平成17年度から外部評価制度を導入している。

評価は、業務の実施内容を評価する管理運営評価（一次評価）と、公園の公益性や設置目的との適合性の評価（二次評価）の二段階で行った。

一次評価では公園の目的、業務体系を表したパークマネジメントカルテに基づき、事業者の自己評価、来園者アンケート（5点満点）、県による事業診断（4点満点）を行った。

二次評価では、一次評価結果データや現地視察の結果に基づき、外部有識者（静岡県都市公園懇話会委員）が意見交換し、設置目的の内容を機能別に分類した項目ごとに「Aプラス」から「Cマイナス」までの9段階評価と文章により総合判定した。今後、指摘された具体的な改善点などに基づき、指定管理者の管理運営の内容の向上に活用していく。

令和7年度 実施内容

区分	実施内容	説 明	実施時期
I	パークマネジメントカルテ	設置目的から個別業務内容までを構造的に示した作戦体系図を作成し、業務ごとに年間目標値を定めた。	令和7年4月
II	外部評価アンケート	公園の基礎的な管理項目と来園目的に対する満足度を5段階で調査した。県営7公園の利用者を公園現地で無作為抽出し、対面式・回収式で調査した。（5点満点）	春・秋
III	一次評価	パークマネジメントカルテの実績、外部評価アンケート、職員モニタリングを基に、評価基準に従い客観的に数値付けした。（4点満点）	10月～11月
IV	公園現地視察・指定管理者へのヒアリング	外部評価委員による現地視察及び指定管理者へのヒアリングを実施した。	11月
V	二次評価	I～IIIのデータに、県営7公園の公益性や設置目的との適合性に関する外部評価委員の知見を加えるとともに、委員による公園の視察結果を基に評価を総括した。	令和7年12月～令和8年3月

（参考） 9段階評価ポイントの意味

記号	意味	その他
A	十分満足できる	心象としてABCに対し上回るか下回るかにより、必要に応じ、＋、－の付加記号を付ける。
B	概ね満足できる	
C	努力を要する	

令和7年度 県営都市公園の9段階評価ポイント

評価ポイント

静岡県草薙総合運動場

R 6

R 7

評価の総括		A-	A
機能別評価	A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての体制強化	A	A
	B 地域や利用者の方々が利用しやすい場の提供	A+	A+
	C 地域との連携・協働	A	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A+
	E 公園の魅力の広報	A-	B+
	F 収益向上への取組	B+	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

遠州灘海浜公園

R 6

R 7

評価の総括		A	A-
機能別評価	A スポーツに親しむ場の提供	A	A
	B 自然に学ぶ場の提供	A+	A
	C 地域利用の場の提供	A	A
	D 地域との連携・協働	A-	A-
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	F 公園の魅力の広報	A-	A-
	G 収益向上への取組	B+	B+
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

愛鷹広域公園

R 6

R 7

評価の総括		A	A-
機能別評価	A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施	A+	A
	B 自然と親しむ場の提供	B+	A-
	C 地域との連携・協働	B	B+
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A
	E 公園の魅力の広報	A	A
	F 収益向上への取組	A	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A-

静岡県富士山こどもの国

R 6

R 7

評価の総括		A	A
機能別評価	A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供	A	A
	B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供	A	A
	C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供	A+	A+
	D 地域との連携・協働	A+	A+
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A
	F 公園の魅力の広報	A	A
	G 収益向上への取組	A-	A-
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

小笠山総合運動公園

R 6

R 7

評価の総括		A	A
機能別評価	A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）	A+	A+
	B 地域利用・多目的利用の推進	A	A
	C 地域・企業との連携・協働	A	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A-
	E 公園の魅力の広報	A	A-
	F 収益向上への取組	A-	A
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

吉田公園

R 6

R 7

評価の総括		A	B+
機能別評価	A 花や緑に親しむ機会の提供	A	B
	B 地域住民の利用促進	A	B+
	C 地域との連携・協働	A-	A-
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	B+	B
	E 公園の魅力の広報	A-	A-
	F 収益向上への取組	A	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A-

浜名湖ガーデンパーク

R 6

R 7

評価の総括		A	A
機能別評価	A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供	A-	A+
	B 多様な体験の場の提供	A	A
	C 地域との連携・協働	A+	A+
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	E 公園の魅力の広報	A	A
	F 収益向上への取組	A-	A
	G 安全・全安心で快適な施設の提供	A	A-

1 静岡県草薙総合運動場

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

一般にスポーツは「見る・する・支える」といった要素から構成されるが、静岡県草薙総合運動場では、「見る・始める・公園コミュニティの創出」という形で呼応し、ハード・ソフト両面からの取組が行われている。

ハード面では、「令和7年度外部評価 一次結果」が中間時点で前年3.8から本年3.9へと向上している。これは項目「一般利用者のための散策等緑地空間の提供」が前年3から本年4に上昇したことが支えており、2022年から取り組んでいる「スケートボードスペースの提供」「ドッグラン」「みにとしょ」の効果が現れていると言える。また、昨年の改善点として指摘された「野球場」の満足度が前年4.0から本年4.2へと回復傾向にある。これは、指定管理者が本年の取組として掲げている「アンケート満足度の改善：5S重点項目設定による清掃・美化」活動の効果の現れである。事実、項目「トイレの清掃状況」が前年3.8から本年4.3へと急上昇している。

一般に5S活動は副次的な効果として、いわゆるトヨタ式のカイゼンにもつながり、組織内人材の育成にも寄与するとされている。実際、公園内の部分補修に関しては外部業者へ委託せず、自主作業で完遂できるよう工夫されるなど成果が見られる。

ソフト面において、まず「見る・始める」という観点では「エンジョイダンスエクササイズ」などスポーツを始めるきっかけ作りのイベントが22回開催されており、「バレエ教室お披露目会」といった競技者の裾野を広げることへとつながっている。また、「公園コミュニティの創出」の観点からは、キッチンカーやものづくりコーナー、あそびコーナーなどを設ける9月実施「草薙わくわく夏祭り」が前年921名参加に対して本年1,119人参加 前年比121.5%であり、地域の利用者促進へ着実に効果を発揮している。

その結果、令和7年度の利用者数は7月15日のプロ野球一軍公式戦（東京ヤクルトスワローズ対読売ジャイアンツ）が雨天中止になったにもかかわらず、中間目標463,400人に対して、中間実績522,172人・達成率112.7%と目標を達成し、前年度同時期の達成率93.1%と比較しても大きな上昇カーブを描いている。また、自主事業教室の会員数も中間時点で前年1,614人に対して本年1,667人・達成率103.3%と堅調に推移している。

今後もハード・ソフト両面でのブラッシュアップや新たな取組に期待したい。

● 改善事項

施設運営では、項目数が異なるので単純比較できないがアンケート調査にて「トレーニングルーム」の満足度が前年4.4から本年4.2に低下していることが懸念点である。この低下の主要因は項目「飲食等の施設状況」3.6が大きく影響していると思われる。現実的には常設のカフェなどは収益性の観点からも困難であり、自動販売機などでの対応となっている。アンケートでの自由回答を見てみるとスポーツドリンクへのニーズが一定程度あることから、品揃えの修正を一考すべきとも考えられる。一方でプロテインの常時販売が計画されているとのことなので、こちらの推移は見守りたい。

また、利用者が多く人気の高い「庭球場」も満足度が前年4.0から本年3.9へと低下し、項目「飲食等の施設状況」3.3が大きく影響している。自家用車利用の方々が約60%であることを踏まえると、可能であるならば近隣の飲食店などを案内し、満足度向上につなげたい。自主事業教室では「野球場」「このはなアリーナ（体育館）」「庭球場」「水泳場」の4か所にて子供向け48・大人向け54、合計102と多様なプログラムが運営されている。一方で、公園内

全体を使ったプログラムがあまり無く、この点で少し可能性があるのではないかとと思われる。例えば、健康寿命の延伸の1つとして長野方式（インターバル速歩）と呼ばれるウォーキングの一種が注目されている。こうした健康に関するトレンドを踏まえた新たなプログラムの創出に期待したい。

● 機能別の評価

A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての体制強化

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

「見るスポーツ」としては先述のように、残念ながらプロ野球一軍公式戦は中止となったが、ウェスタンリーグ2軍戦やオープン戦といったプロ野球の試合開催は中間目標8試合に対して実績7試合、またプロ野球以外の有料試合開催が中間目標3回に対して実績6回と合計では中間目標11に対して実績13と上回っている

また、アマチュアスポーツにおいても、U-20日本陸上選手権が現指定管理者のもとでは初開催されるなど中間目標13回に対して実績25回と大きく上回っている。

こうしたスポーツに触れる機会に加えて、中学校の部活動が地域移行することへの対応が進められている。静岡市では2027年9月までに中学校の部活動を地域の新しいクラブに転換することを2025年1月に打ち出している。しかしながら、現状では部活動の参加者には教育委員会などから斡旋・紹介などは無く、自ら個人単位で代替先を探索する必要が生じている。

現在、指定管理者は部活動の受け皿として例えば、野球を土日祝日と月間8回程度実施している。また、バレーボールや陸上も週1回程度、実施しているが現状では習い事程度の段階であり、本格的な指導までには至っていない。本格的な実施が迫っているため、情報収集に努め、より良い仕組み作りが望まれる。

B 地域や利用者の方々が利用しやすい場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

静岡県草薙総合運動場は、外部評価アンケートにおいて交通手段が自家用車利用の方々が約60%ではあるものの、実際には5分、10分程度の距離でも自動車を使用しているため、ほとんどの利用者が近隣住民である。したがって、日々、地域住民のニーズを掴むことが重要となる。とりわけ、2025年1月に近隣に民間事業者のフィットネス施設が開業し、利用者が減少することが危惧されていた。

そうした中、新たな特徴的な取組の1つが「大人の野球イベント」である。6月の初開催時は9名の参加であったが、8月の第2回時では29名が参加と確実に利用者を増やしている。このような、いわば新規の「大人向け」イベントには、9月実施の「マスターススイムレッスン」もある。こうした細かなニーズの把握によって、かえって利用者の増加につながっていることは高く評価できる。

また2022年開始のスケートボードスペースの提供が566名、2023年開始のドッグランが579名、2024年開始の「みにとしょ」の貸出数が1,155冊とここ数年の取組も着実に浸透し利用者が増加している。

今後は、こうした取組を通じてのコミュニティーの形成や、コミュニティーを起点として新たなイベントの創出に期待したい。

C 地域との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

まずシニアへの対象では、2018 年から開始した S 型デイサービス出張出前講座が前年 109 名に対して本年 123 名・前年比 112.8%、次に子ども園と連携した紙芝居の参加者も前年 50 名に対して本年 97 名・前年比 194.0%と大きく増加し、定例の地域連携への取組が確実に浸透していることが窺える。

こうした地域住民向けの連携に加えて、一般利用者に対しては参加型イベントが中間目標 20 回に対して実績 36 回・前年比 180.0%と大幅に増やしており、とりわけ 5 回の「スペシャルバレエレッスン」、4 回の「エンジョイダンスエクササイズ」が牽引している。また、文化系イベントも中間目標 10 回に対して実績 12 回・前年比 120.0%と増やしており、運動系・文化系を問わず多様なニーズを持つ利用者への対応が工夫されている。

また、4 月には静岡市立清水第七中学校美術部との協働で、「このはなアリーナ」近くの屋外トイレに壁画アートが制作されている。既存施設のみならず新規施設である「スケートボードスペース」「ドッグラン」「みにとしょ」でも、こうした協働が可能であるならば、より一層地域住民からの愛着も高まるかと思われる。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

従来の自主事業における会員は「クール制会員：約 4 ヶ月にわたり 1 つのプログラム（教室）を受講」「フリーパス会員：1 ヶ月の定額制」「月会員：プログラム（教室）によって回数が異なる」が主な形態であったが、新たに大人を対象とした「月 6 回会員」が新設された。これは「フリーパス会員」価格より安価に様々なプログラム（教室）を試すことができるため、新規会員拡大を図るものである。5 月開始であるため中間時点（9 月末）では会員数は 6 名にとどまっているものの、プログラム（教室）参加延べ人数は 76 名であり、今後の伸張が期待できる。

プログラム（教室）の内容・回数については、様々なニーズを反映し、水泳場では土日の「こどもプール」が前年から 1 つ追加され、また、土日に中学・高校生向けの拡充として「中学・高校野球教室」が新設されるなど、工夫がこらされている。

一方、休眠会員などに対しては、民間のフィットネスクラブでも用いられているように、電話によるアプローチによって掘り起こしを行っている。

その結果、プログラム（教室）参加延べ人数では、ジョギングが前年 1,575 人に対して 1,862 人・前年比 118.2%、トレーニング室個別指導が前年 46 人から 111 人・前年比 241.3%と大きく伸張し、全体では前年 37,988 人に対して本年 40,295 人・前年比 106.1%と増加している。

こうした健康増進の目的以外でもアスリートの育成にも注力しており、本年はプログラム（教室）から日本中学校体育連盟（中体連）の試合へは 14 名、県大会へは 11 名、東海大会へは 1 名が出場と大きな成果をあげている。

E 公園の魅力の広報

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

前年からの改善として指摘のあった、「野球場や関連展示のアピール強化」に関しては、S 型デイサービスへ出前講座や SNS による紹介が検討されている。8 月には 1934 年に行われた日米野球に出場したペーブ・ルースのサインボールが寄贈されており、より一層のアピールを

期待したい。なお、現状の SNS 施策であるが Instagram フォロワー数 2,715 人、インプレッション数 897,123（3 月末時点）である。LINE の友達登録は 1,963 人、インプレッション数 1,731（3 月末時点）と一定程度の伸張が見られる。一方で YouTube の扱いが課題となっており、とりわけ対象の設定が急務である。YouTube の再生数やフォロワー数の増加には、一般に YouTube 間のコラボレーションが重要とされる。例えば、公式 YouTube 登録数が SBS（静岡放送）は約 4 万人であるが、同社は毎週月曜日午前中に体操を軸とした健康番組を放送し YouTube でも流している。こうしたある種、公的な健康や体操を扱う YouTube との協業も効果があるのではないか、と思われる。

また、「しずてつるルカアプリ」（登録数 6 万人）との連携として、加盟店ページに草薙総合運動場が追加されている。今後は、例えば、セノバ内のスポーツ関連ショップとの連携により相互送客の機会拡大を期待したい。

F 収益向上への取組

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園内での収益化の 1 つとしては、本年から「スナップドリンク」が設置されている。「スナップドリンク」とはサントリー食品インターナショナルが提供する思い出の写真を缶ドリンクにステッカーラベルとして貼り、オリジナルな缶を作ることができるシステムである。まだ実施されたばかりであるが、こうした新しいサービスの導入は今後も必要であろう。

また、自主事業における各種イベントにおける収益化の 1 つとして 10 月実施「草薙運動場まつり」内のスポーツパークの有料化がある。これはスポーツパークを利用する際の「遊び券」を有料にしたものである。200 円で 6 枚セット綴りが購入でき、1 回につき 1 セットが使用できる。「しずてつるルカアプリ」から約 2 万人にプッシュ通知され、約 700 人程度が購入した。金額ベースではそれほど多くはないが、「草薙運動場まつり」の来場者が約 1,100 人であることを踏まえると利用シェアは非常に高いと言える。

このように広報手段としても「しずてつるルカアプリ」は有効であるが、各種施設との相互送客を通じての、いわゆるマネタイズの検討も試みてほしい。前年からの改善として指摘のあった、「自主事業ではイベントごとの収支においてかなりバラツキがある」という点に対しては、先述の中学校部活動の受け皿としてのイベント等を検討に加えて、ドッグランの有料化も検討されている。今後の進展を注視したい。

なお、指定管理者への直接的な収入ではないが静岡鉄道株式会社が 12 月に命名権（ネーミングライツ）を取得したことを発表している。報道によれば、2026 年 4 月より、愛称が「しずてつスタジアム草薙」となり年間 1,100 万円・5 年間契約とされる。この資金を県が施設運営の向上に使用することなので、指定管理者とより良い協議が行われることを期待する。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

前年からの改善として指摘のあった、「一部で原因不明の地盤沈下が点在している」点は安全性の確保から小修繕を検討し協働で改善に努めるとされている。実際、球技場入口アスファルト陥没箇所は、外部業者へ委託せず現場事業者によって補修され、半年以上経過も特に問題は無く、車両も通行ができる状態である。

こうした自主的な修繕活動が実施できた背景には点検アプリ「管理ロイド」の導入がある。これは、スマートフォンを活用して写真やテキストを入力し、施設点検や設備管理の報告を行うものである。入力時のエラー検知もあり、導入によって業務時間が年間約 300 時間も削減され、この生み出された時間が修繕作業に充てられている。またこうした修繕作業に必要なスキルも自主的な学習で獲得しており、そのための時間にも用いられている。

コストとしての時間の有効活用に加えて、資材の有効活用も行われている。例えば、硬式野球場の座席は劣化したものを新品へ交換していたが、現在はプラ溶接とアンカー施工によって再利用がなされている。その結果、費用が1/4程度まで低減している。これらの溶接や施工も自主的な学習で獲得したスキルの1つである。

また、対面サービスにおける安全・安心の確保には受付窓口やクレーム対応が重要である。この点においては、指定管理者の親会社のマニュアルや人材育成用動画などの活用に加えて、担当者による対面講義によって、一定の質の担保されている。とりわけ今年度は学生の卒業に伴うスタッフの入替が多く、より一層、研修の重要性が高まっていた。アンケート結果では、項目「公園スタッフ」の満足度は4.5であり、高い水準を維持している。

2 遠州灘海浜公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本公園は、県西部を代表する優れた天然芝球技場を有し、西部におけるラグビー、サッカーなどスポーツ・レクリエーションの拠点として、また海に近く、広大な芝生や遊具広場を配する地域住民の憩いの場、自然観察の場として、大きく二つの役割を担っている。このような公園の目的が、行き届いた維持管理と多様なニーズに対応したアクティビティやイベントの提供によって実現され、これも長年にわたる指定管理者の努力の賜物と高く評価したい。視察時（11月19日）には、園路脇にツワブキの群生が見られ、紅葉・落ち葉の季節であったが、行き届いた樹木などの管理や清掃の様子が印象的であった。

今年度の公園利用者は中間目標数に届かず（57,800人→45,083人）、昨年実績（中間58,600人→48,725人、年間140,000人→125,864人）に続き減少傾向となっている。公園の機能のほとんどが屋外空間に限定されているという特徴上、昨今の気候変動による温暖化、風雨の激甚化などによって、公園の活動状況や利用者数が大きな影響を受けていることは否めない。実際に雨天や猛暑によるイベントの中止回数は、スポーツ、自然観察、地域活動を含めて昨年年間実績で115回、今年度の中間実績で62回に及んでおり、大きな影響を受けていることが理解できる。一方で、利用者数の把握はイベント時のカウントに限られており、地域住民の日常的な散歩や犬の散歩の利用者も多く、その数を正確に把握するのは難しい状況である。一度平均的な平日、休日に公園利用者数の概数を把握する試みも必要だと考える。

アンケートによる総合満足度は、4.65から4.58へと若干低くなっているが、高い評価を得ている。アンケートの施設別、管理項目別満足度からは、木陰や水遊び場などの暑さ対策、飲食、イベント内容への要望が多い。この指摘に対して、具体的なニーズ分析や利用動向への対応を通じて、今後の利用者サービスの向上を検討すべきだろう。

加えて、建物内、トイレの清掃状況のポイントが昨年度より総じて向上している点は、管理者の努力の成果と評価したい。

指定管理者は、来年度指定管理者更新の時期を迎え、継続して指定管理を担う予定である。これからも新たな連携、大型イベントの誘致など、積極的に取り組むことによって、利用者の増加や満足度の更なる向上に努めてほしい。

● 改善事項

公園利用者数については屋外イベントがメインであり、悪天候による中止による利用者減はやむを得ない部分もあが、今後も利用者動向の分析を踏まえた上で、新たなイベントや広報の在り方を通じた利用促進を図っていくことが求められる。そのためにも下記の改善を検討いただきたい。

○ 園地の利用者満足度の向上

屋外での利用が主である公園で、今後も猛暑対策は必須なので、利用者からのアンケートでも要望の多い、木陰の休憩所、水遊び場、簡易なミストの設置、屋内の冷房スペースの確保への対応、対策を進める必要がある。

○収益性の追求 イベントの誘致と工夫

利用者満足度でもイベント内容の充実という項目のポイントが少々低調であるので、注目度の高い、収益性のあるスポーツイベントや文化イベントなどを組み込んだり、地元企業とのコラボやスポンサーシップを通じて新たな誘致や規模の大きなイベントを少しでも開催することによって収益向上と利用促進を検討してほしい。

また駐車場の有料化は議論を継続する必要があるが、一部有料化するなどして、将来的な収益源とすることも検討すべきだと考える。

○広報 SNS などによる情報発信と利用促進

アンケートの公園の情報源についてホームページは22.5パーセントである一方で、公園のInstagramや利用者のSNSの数字は5パーセント前後にとどまっており、よりタイムリーな情報を提供するためにも、改善の余地があると考ええる。(詳細は「F.公園の魅力の広報」を参照)また地域の媒体である地方新聞のイベントサイト、地域情報誌、情報サイトなどを活用することによって、更なる利用促進につなげることも期待したい。

● 機能別の評価

A スポーツに親しむ場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

スポーツイベント、サッカー、ラグビー大会や各種スポーツ大会の回数は中間目標を大きく上回り(24回→38回)、積極的に開催されており、その実績を評価したい。一方で、参加者数は昨年度に比して少々低調な数字になっており、その原因を更に分析すべきだろう。球技場は地域で唯一の天然芝となっており、サッカー、ラグビーをメインとして、小中高、大学、シニアなど地元チームをはじめ、広域的な団体との連携などを通じた幅広い利用があり、週末の稼働率はほぼ100パーセントに達している。ターフのメンテナンスも週3回の日常管理と、夏、秋のクローズ期間によって良好に保たれている。ターフの維持管理には大きな経費がかかるが、温暖化へ対応した芝生種の選択や、機械を他の指定管理場所と共同使用することを通じた経費削減の工夫などに積極的に取り組んでおり、高く評価する。

なでしこリーグ、関東や関西の大学交流試合など、レベルの高い大会に加えて、今年度は新たに地元企業ラグビーチーム、ブルーレヴズとのコラボによる初心者向けのラグビー体験教室を開催して、将来的な誘致と利用促進、新たなファン層の開拓などを試行した。これは地元企業のスポンサーによる連携と通じたイベントであり、今後も注目度の高い、収益性のあるスポーツイベントなどを組み込んだり、地域のニーズやリピーター属性などを分析した上で、新たな誘致と大規模イベントによる利用促進を検討してほしい。

加えて、各種スポーツ教室や体験教室は雨天による中止が7回あったにも関わらず、参加者数が目標値を大きく上回っている(400人→1,555人)。広大な園地を活用したノルディックウォークやカップ体験、いきいきストレッチなど幅広い年齢層を対象とした生涯スポーツ教室や、障がい者を対象としたパラスポーツにも積極的に取り組んでおり、参加者数が大きく増加して盛況である。これは気軽にスポーツに親しむ場、健康福祉や生涯スポーツを提供するという目的が地域ニーズへ合致したものであり、これを更に推進してゆくことを期待したい。

B 自然に学ぶ場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

自然豊かな公園や周辺環境という強みを活かした自然観察会や環境学習などのプログラム

が目標回数どおり実施されており高く評価したい。それぞれの参加者も目標値を 25 パーセント程度上まっており、利用者満足度も 4.1 と、昨年度の 3.7 から大きな改善が見られており、人気も認知度も高まっていると評価する。

内容的には地域の様々な協力団体と共同で自主事業を開催、バードウォッチングや春秋の夜間観察会、毎月の星空観察会、ウミガメの観察放流会など公園の立地を効果的に活用した四季折々の取組が週末を中心に毎週のように実施されている。「こども自然楽校」では子供の年齢層に合わせて自然に触れ合う機会を提供している。中でも通年で開催されている E-na（い～な）クラブは幼児から中学生まで約 30 名が参加して年 10 回実施されており、観察や野菜栽培などを通じて自然に親しみ、身のまわりの環境を考える貴重な機会を提供している。中には長期にわたり参加して、環境教育のリーダー的な存在へと成長している参加者も出ており、年齢の異なる子供たちの交流、成長の場となっている。他にもネイチャーゲーム、ナイトパーク、幼児を対象としたスウェーデン発祥のユニークな自然環境教室などを通じて、子供の時から環境保全や SDGs という考え方を身につけることができるプログラムを提供している。アンケート調査でも、施設利用の感想では自然生態観察園や観察広場の評価が相対的に高くなっており、地域の利用ニーズが大きく好評を得ていることが窺える。このような実績と経験を活かして、将来的には学校単位での環境教育を提供する場所として更に幅広い公園利用を促進することも検討されたい。

C 地域利用の場の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

快適な園地（芝生広場、遊具広場等）の提供では、利用回数は中間目標値 180 回に対して 164 回と下回ったが、雨天による中止が 24 回に達した影響が大きい。それに応じて参加者数は目標値より微減となっている。遠足、園外学習などの利用や、グラウンドゴルフやノルディックウォーキングなど、場所を有効に使った多様な年齢層が参加できるプログラムが提供されている。一般利用者からのアンケートのコメントでは、木陰、休憩所、水遊び場への要望は引き続き多く、今後も温暖化対策を進める必要がある。また、大変人気のあるサイクル広場での自転車、一輪車の整備や台数増を望むコメントや、遊具広場などでの遊具の更なる充実への要望が多かったので、今後の検討をお願いしたい。

文化イベントの誘致開催も目標回数値を上回って達成しているが、雨天による中止が 12 回もあった影響もあり、全体の参加者数も目標値の約半分となっている。これは春の大規模イベントが開催されなかった影響が考えられ、利用者満足度でもイベント内容について比較的低いポイントとなっている。今後は事業内容について新たな取組を検討して、大規模イベントや連携プログラムなど、更なる工夫を図ってほしい。

下半期にかけてもフリーマーケット、クラフト体験や、クリスマス、お正月など季節ごとの体験教室やペットの散歩者用の教室などが週末ごとに開催されている。また最も大きなイベントである「おはこ壺」には、ワークショップ、物販、飲食を含め 200 件に迫る出店があり地域の一大イベントとなっているが、昨年度出店実績の 230 件から減少している。これは教室、イベントプログラムに関してマンネリ化という課題があるのかどうか、課題の洗い出しやニーズに基づいたプログラムの再検討を通じて参加者数の増加につなげてゆくことを期待したい。

D 地域との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティア活動の場の提供と公園運営への参画という点では、雨天による中止が 14 回もあり、実施回数、参加者数も目標値には届かなかった。悪天候の影響はやむを得ないが、ボラ

ンティアの受け入れが主にゲートボールやグラウンドゴルフの団体、地域企業の使用後の清掃活動で、その都度の受け入れとなっており、公園運営に常時参画する体制ではないことも今後の検討課題であると言えるだろう。今後は地域住民のボランティア募集を通じて、常設的なボランティア組織が構築できれば持続可能なサポートが得られるので、将来的な検討が必要である。

地域の学校、企業、施設との連携については、こちらも天候に左右されたが、その中でも目標回数（40回→56回）、参加者数（1200人→1706人）とも大幅な増加になった。

周辺の中高等学校、協働センター、天文台、企業、浜松市、自治会、障がい者の就労体験（特別支援学校、病院施設、精神クリニック）など、多様な機関、組織と連携して、共同での事業開催や就労体験などに取り組んでいて評価したい。

特別支援学校からの短期的インターン体験者が、今年度から公園職員として実際に勤務しているということで、これは喜ばしい事例であり、継続されることを期待したい。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アンケートの実施とフィードバックに関して、目標値を上回って積極的に取り組んでいる。他にも日常的なヒヤリング、提案箱の提言、ホームページなどでの対応を掲示板などで公表している。また昨年度のアンケートで課題となった建物内、トイレの日常的な清掃について、今年度は総じてポイントが上がっており、アンケート結果に対して、利用者の更なる快適性を目指して積極的な対応をしている証と評価する。

加えて、引き続き温暖化による猛暑への対応を求めるコメントも多く、水遊びのエリアや木陰のベンチ、屋内の冷房スペースがほしいという要望もあり、今度とも利用者サービスの工夫を検討していく必要があるだろう。

また、これも例年アンケートのコメントに多く見られる、飲食やカフェスペースへの要望についてであるが、昨年度は週末のイベント時にキッチンカー10店舗やマルシェ3団体が参入することになっていたため改良は進みつつあると考える。常設の店舗スペースを確保するのはなかなか難しいと思うが、平日などの日常的な利用者に対しては、例えばスナック系の自販機やコーヒーの自販機などの提供を検討して収益にもつなげる手法も検討してもらいたい。

F 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園の魅力発信に関してはイベントカレンダーの配布、新聞、テレビ、SNSでの情報提供など多様な媒体を通じて中間目標値どおりに実施している。また新聞販売店と連携して毎月イベントのチラシを配布して、地域への情報発信を行っており、利用者の増加、利用促進に努めている。昨年度の課題となっていた石人の星公園という名称を強調してアピールするということは、HPやSNSでの発信や新たなパンフレットの更新などによって改善されている。

アンケートの公園の情報源についての回答では、ホームページは22.5パーセントという数字になっているが、公園Instagramや利用者のSNSの数字は5パーセント前後にとどまっており、よりタイムリーな情報を提供するためにも、スタッフブログをより目立つものとするとか、Instagramの写真をもう少し魅力的なものにすることなど、改善の余地があると考えられる。そして、フォロワーの増加や利用者による拡散につながる情報発信を検討してゆく必要がある。また地域の媒体である地方新聞のイベントサイト、地域情報誌、情報サイトを活用した発信を更に拡大することも重要である。その中で、石人くんキャラクター、石人の星のストーリーをブランド化して、更に効果的に公園全体をアピールしていくことを継続してほしい。

G 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

収益向上策の実施では、持ち込み企画数が中間目標の2件を上回り4件の実施となり、管理者の誘致努力の結果と評価する。一方で、売店、出店料、自動販売機の収益に関しては目標値の7割程度の結果となっている。これは悪天候の影響もあり、利用者数が減少した結果が主な要因と考えられるが、今後はアンケートにも要望のある新たなイベントの企画や日常的な飲食の提供（多様な自販機の導入など）を通じた収益確保を図ってほしい。

自主事業による利益の還元では収入の中間目標に届いておらず（150万円→100万円）、今後、新たな収益事業の展開を検討して、更に収益の向上を目指してほしい。現状は自販機による収益の割合が多いとのことだが、ラグビー、サッカーなどの有料イベントの誘致、その際のパナーの掲示と利用料、スポンサーとコラボした自主事業を開拓してゆくことなども検討してほしい。

駐車場の有料化に関するアンケートでは、基本的に無料のままであってほしいというコメントが多数ではあるが、中には土日、有料イベント時のみ有料、平日は1時間は無料でそれ以降は有料とするなどの一部有料を許容する意見もあるため、今後の収益向上の施策の一つとして検討すべきだろう。また平日で駐車場に空いている時間帯に、空の客待ちバスや大型車両などを対象とした有料化や、働く車の展示など、多様な有効活用を検討することも必要だと考える。

H 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

安心安全な施設の提供においては、日常点検、定期点検、清掃チェック、塗装修繕など、中間目標値どおりに着実に実施されている。実際に利用者満足度から見ても、建物内、トイレの清掃状況のポイントが昨年度より総じて向上しており、管理者の行き届いた日常的な努力の成果だと評価したい。

また、危機管理行動や施設維持マニュアルの整備、訓練講習会への参加も目標どおり行われている。ユニバーサルデザインに基づく園路の整備、案内看板の整備なども計画どおり実施されており、安心安全な施設づくりに努力されていることが理解できる。

また、2025年7月末のカムチャッカ半島地震時の津波警報対応が、混乱なくマニュアルどおり実施できたということも、危機管理行動に関しての研修、訓練が繰り返されて確立されてきた賜物だと考える。このように災害時にも円滑な避難行動を主導できる公園であるということをホームページなどで広く発信すべきだろう。それによって学校単位の園地、遠足などの利用促進につなげてほしい。

3 愛鷹広域公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本年度は多目的競技場工事（7月～3月）のための利用制約下にあるが、公園利用者数は176,529人（中間実績、有料＋無料）と、昨年度実績を下回るものの中間目標140,000人を大きく上回り、特段利用制約もない過年度に遜色のない実績を達している（令和5年度183,926人、6年度185,092人、いずれも中間実績）。指定管理者の運営努力・工夫の賜物である。ただ、利用者アンケートによる公園の満足度は4.14と前年度比0.21ポイントマイナスであるのが気掛かりである。

本公園は施設構成から運動公園の色彩が色濃いが、設置目的では「県東部のスポーツの拠点」とともに「自然に親しむ場」の二本柱が位置付けられている。前者に関しては、スポーツ拠点に相応しく陸上、野球、サッカーなどの定番大会・試合に加え、本年度もいくつか新規の大会・試合が誘致され、また大人向け・子供向けの運動教室の拡充が図られている。円滑なスポーツ大会・利用は、野球場、サッカー場、テニスコート等の適切な日常の整備・管理による安全・安心・快適な施設の提供に支えられている。

後者に関しては、オリエンテーリング、ホテル祭り、さくらまつりが実施されており、参加者数は県外含め増加傾向にある。また、自然を親しむ場でもある「せせらぎの径」の木道等の大規模修繕が行われ魅力を高めている。本年度は新たに愛鷹山の山登り、11月に満開のヒマワリ花壇も実施されたが、引き続き少し視野を広げ公園の特性・ロケーションを活かした自然に親しむ・学ぶプログラムの検討・展開は期待したい。

本年度は従来よりの新聞・情報誌等に加え、WEB、SNSを活用した積極的な公園広報にも取り組まれた。それにより若い世代への情報訴求が図られ、新たな公園利用に結び付いた可能性もある。また利用者層の変化による公園評価の新傾向の一端も覗けた感がある（ソフト・サービス面重視）。

昨年度の「改善事項」に対しては、隣接する沼津市営愛鷹運動公園等との連絡会設置、地域企業連携のエコ推進活動、インクルーシブ活動、愛鷹山山登りなど、地域利用・地域連携の観点からの新たな取組（新しい形）が実施され、喜ばしく思う。更なる展開も期待したいところである。

● 改善事項

本公園の計画・運営状況、並びに県営都市公園の全体動向も踏まえ、中期的な観点からの少し視野を広げて以下各項の検討、順次導入をお願いしたい。

- ① 自然に親しむ場としての内容充実： 公園の特性・ロケーションも活かした愛鷹広域公園らしい特色ある自然に親しむ・学ぶプログラムの検討・導入する。周辺環境（愛鷹山エリア、隣接運動公園（森林散策エリア）等）の活用や専門機関・団体（県内大学・研究機関、自然系NPO等）との連携も一法だろう。花をテーマにした活動の更なる広がりも期待したい。
- ② 地域連携・協働の新しい形の導入・推進： 本年度の新たな試みも踏まえつつ、地域連携・協働の新しい形を検討・推進する。隣接・相補関係が見込める沼津市営愛鷹運動公園との利用・運営・広報等での協力・連携、いわゆるボランティアの枠組みを超えたスポーツ利用団体の協力・協賛、地域企業とのCSR連携、プロボノ、インターンなどの導入・活用も考えられる。
- ③ 平日利用・オフシーズン利用の検討・推進： 県営都市公園の管理運営に難しさが増す中で、従来よりの「スポーツ」「自然」の枠組みを超える発想・形での事業性を踏まえた公園施

設の管理運営、特に平日利用・オフシーズン利用の事業プログラムの検討・導入を期待したい。

● 機能別の評価

A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本年度も大規模なスポーツ大会・イベントの開催・誘致に積極的に取り組まれている。例年実施されている陸上、野球、サッカーなどの大会（高校野球（春、夏）、東部陸上選手権、サッカー東部女子リーグなど）に加え、昨年度はNPB フェームリーグ、YBC ルヴァンカップなど、本年度は女子硬式野球交流戦などが新規誘致され、開催件数（中間実績）は中間目標に届いていないが、活発な大会・イベントの開催・誘致は評価したい。多目的競技場はJ3アスルクラロ沼津のホームグラウンドとして多くの試合も開催されてきた。ただ2026シーズンよりJFLに降格となるため、次年度の競技場利用、公園利用者数への影響は注視したい。

大人向け運動プログラムは、ヨガ、ピラティス、太極拳、ノルディック、ランニング、ララフィットネスなど既に充実しているが、本年度には新たにダンス系プログラム2種類が加わり好評を博している。開催数（中間時点、（ ）内は目標数）は令和5年度118回（85回）から6年度181回（100回）、7年度185回（100回）と推移し、十分に展開されていると言ってよいだろう。子供向けプログラムも卓球、陸上、サッカーなど安定的に実施されている（中間実績で13種目）。

現指定管理者になって始められたトップスアスリート（プロ野球、プロサッカー）による運動指導プログラムは本年度も人気であり、愛鷹広域公園の特色プログラムとして定着した感がある。

B 自然と親しむ場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園内の自然を活かしたオリエンテーリング、ホタル祭り、さくらまつりなどが実施されており、参加者数は県外含め増加傾向にある。ホタル祭り、さくらまつりでは、カワニナ採集・放流、ナイトマラソン、照明デザインなどが展開されるなど工夫もこらされている。4月には桜を見ながら山登り（愛鷹山）が実施されており、ロケーションを活かした公園外への展開は評価したい。

また、自然に親しむ場でもある「せせらぎの径」の木道等の大規模修繕が行われたこともあり、利用者アンケートの施設別管理状況の満足度は3.7と改善傾向が窺える（前年度3.0）。ただ、なお評価は低めでありハード面以外での引き続きの検討・工夫が必要と思われる。

本公園は施設構成から運動公園の色彩が色濃いと思うが、設置目的では「県東部地域のスポーツの拠点」とともに「自然に親しむ場」が二本柱に位置付けられていることを鑑みると、本年度は一部公園外への展開も試みられたが、引き続き少し視野を広げての公園の特性・ロケーションを活かした自然に親しむ・学ぶプログラムの検討・展開は期待したいところである。本年度は11月に満開のヒマワリ花壇が登場したが、花の径の話題性、通年性に向けた試みとして興味深い。

C 地域との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

県営都市公園として公園運営における地域との連携・協働は基本的な課題であり積極的な推進が求められる。本年度は新たに、隣接する沼津市営愛鷹運動公園等との連絡会を設置しての公園エリアの運営協議や、富士市製紙メーカーと連携したエコ推進活動（公園内紙ゴミのトイレトペーパー再生利用）、インクルーシブ活動（夏の高校野球大会で使用済みの古ボールの再生利用）に取り組み、また市内企業との森林ボランティアの検討もされてきた。これらは地域連携の新しい形として評価していきたい。

昨年度よりボランティア・コーディネーターが設置され、ボランティアの募集・活動推進に取り組まれている。本年度はほぼ隔月でボランティアによる花壇づくりなどが実施されており、公園への問い合わせも増えているようであり、コーディネーター設置の成果も見え始めている。花壇づくりでは、沼津市の花を増やす運動への協力、アスクラロ沼津等の協賛花壇、沼津特別支援学校植栽教室等の開催など、地域機関との連携にも取り組まれている。花をテーマにした活動の広がりには、自然に親しむ公園の観点から期待したい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本年度は多目的競技場工事のため、公園利用者数 176,509 人（有料 132,044 人、無料 44,463 人、中間実績）は昨年度を下回るものの、中間目標（140,000 人）を上回り過年度に遜色ない実績を残している（令和 5 年度 183,926 人、6 年度 185,092 人、中間実績）。指定管理者の運営努力・工夫の賜物である。多目的競技場の無料開放では中間目標を大きく上回る利用者数が達せられている。7 月からの競技場工事の関係で 4～6 月に限られたが、それにより利用者層の拡大の可能性も察せられる。卓球台の利用人数も昨年度比較（中間実績）で倍増、卓球教室等イベントが寄与しているものと考えられる。また本年度には、かねてより利用者から要望が寄せられていた「せせらぎの径」のユニバーサルデザインの観点もいれた大規模修繕が行われた。

職員の接客関連研修は昨年度に引き続き経験豊富なミズノ本社主導で定期的実施されており、その成果は利用者アンケートの「公園スタッフの対応」への満足度 4.44 と高い評価に表れている。また、スタッフによる軽微の修繕（ベンチ、トイレ等）には、本年度（中間）は目標回数に達していないが（昨年度相当数実施した効果もあるかもしれないが）、きめ細やかな修理等に日常的に取り組まれており、利用者サービス向上、経費節約に努めている。

E 公園の魅力の広報

〔9 段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

スタッフによるホームページ、ブログ、Instagram、LINE の更新などの回数（中間実績 380 回）は、中間目標（200 回）、昨年実績（中間で 304 回）を上回り、イベント情報、愛鷹の自然、駐車場混雑など多岐にわたる情報発信に積極的に努めている。LINE の登録者数は、公園からの登録案内の積極化もあって、本年度に入り増加が目立ち中間時点で 1,650 人と年間目標（1,150 人）を上回る人数が確保されている。

従来からの情報誌、新聞活用に加えて、本年度は WEB、SNS を活用した広報に活発に取り組まれており、それが競技場工事による公園利用者減を補っている可能性もある。また、本年度の利用者アンケートの回答者は 40 歳未満が 8 割近くを占めており（昨年度は 40 歳以上が過半数）、単純に利用者層の年齢分布変化とは言えないが、多くのより若い世代への情報発信が図られた成果とも考えられるだろう。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本年度上期（中間実績）の施設利用料収入は1,889万円（前年比約85%）であるが、7月よりの多目的競技場工事による利用制約下であったことからやむを得ない。ただ、野球場、スポーツ広場の利用料収入も微減であったことは気になるところである。

自主事業収入は自動販売機収入、教室収入が中心であるが、スポーツ教室増設に加え、かねてより利用者アンケート等で寄せられてきた軽食への要望に対応し、昨年・今年と競技場ロビーに「飲料＋スナック自販機」「パン自販機」が導入され、予想を上回る利用実績（売上）を上げているようであり、来園者へのサービス向上が図られるとともに収益面での寄与も察せられる。

一方で、近年の水道光熱費、人件費等の上昇や猛暑による熱中症対策で高校野球のナイトゲームの増加など、指定管理者の運営努力だけでは解消しきれない収益面の圧迫要因も散見されること、付記しておきたい。また、職員による日常的な軽微な修繕への取組、内製による「せせらぎの径」大規模修繕は、経費節減の面でも評価したい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

野球場利用後のグラウンド整備（中間実績135回）、野球場外野芝生の刈込（同40回）は目標回数以上に実施されており、多目的競技場サッカー場整備についてはJリーグコミッション一点数を指標に適切な整備に努めるなど、日常的に利用者目線（競技者並びに観客）での丁寧な対応がなされている。また、サッカー、テニス、バスケットのネットの修繕は適宜実施され適切な利用に供されている。ちなみに5年度にはテニスネット全張購入、6年度にはサッカーゴールネット購入が実施されており、バスケゴールネットは都度購入で本年度も購入・交換されている。スポーツ利用面では総じて安全・安心・快適な環境が提供されていると言えるだろう。

ユニバーサルデザイン関連では、点字ブロック等の点検・修繕は随時実施されており、園内自動車道白ライン整備は令和5年度、6年度に公園各所の修繕・整備が維持されており特段の問題は生じていない。また、本年度もミズノ本社主導の顧客満足度向上教育研修等が定期的に実施されており、その成果は利用者アンケートで「公園スタッフの対応」への高めの評価（4.44）に結び付いていると考えられる。

ただ、利用者アンケートによる公園の満足度が4.14と前年度比で0.21ポイント低下しているのが気掛かりである。施設の整備・清掃、スタッフの対応への評価はいずれも4.0以上であるが、「スポーツ」「自然」に付随する交通、飲食、休憩、イベントへの評価がやや低めである（ソフト面、サービス面）。本年度はアンケート回答者の8割が40歳未満の若年層であったことが影響しているかもしれないが（昨年度は40歳以上が過半）、利用者層・回答者層の変化による公園施設構成と利用者ニーズのギャップには留意する必要があるだろう。

4 静岡県富士山こどもの国

● 評価の総括

[9 段階評価]

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

令和6年度の利用者数は目標値220,000人（中間目標値141,000人）に対し214,310（同135,405）人、令和7年度上半期の利用者数は目標値142,500人に対し130,013人と、おおむね目標を達成した。梅雨明けからの猛暑やお盆期間・連休の雨天、冬場の凍結等で、野外事業は大きな影響を受けた面が否めないが、新規プログラムの積極的な展開や送迎サービスの充実などによる営業努力で、利用者増の効果が出ている面は評価したい。今後は、屋内スペース（含；屋根のある場所）の有効活用や天候に左右されないプログラム（場も含めて）の更なる工夫が求められる。

四季折々の行事にちなむ事業・イベント、日常生活では体験できない農作業やものづくり、動物とのふれあい、自然観察などの体験など、こどもの国ならではの事業である。こうした地形や自然を活用した多彩な事業を、地域団体等との連携で、積極的に実施された。

また、新たに「富士山ビューテラス」が設置された。デッドスペースだったことが信じられない素敵なスポットになっている。こどもの国の魅力アップに寄与する運営を期待している。

平日の利用者層の獲得や、園内・園外の移動手段の課題への対応、広報の充実にも取り組まれた。幅広い世代の利用促進への取り組みとして、観光商談会への出席や近隣市町の福祉課・社会福祉協議会を通じてのバスツアーの企画の提案などの取り組みは評価したい。

車で来場する子育て世代のファミリー層のリピーターが主な利用者であったが、近年、シニアの定期的な利用や幼稚園・保育園・学校等の団体利用が増加している。新たな利用者増への取り組み（営業活動・マイクロバスでの送迎サービス・講習会やお食事付プラン開催等）の成果が出ている。

LINE等多様な媒体を活用しての積極的な情報発信も、着実に成果を上げていると推測されるが、今後、利用者層（年代や利用目的別）に対し広報媒体の有用性を確認し、更なる効果的な情報発信に努められたい。

利用者アンケートも、満足度が4.55と目標（4.60）には届かなかったが、昨年の4.5を上回った。特に園路・芝生・建物内の清掃状況やスタッフの対応、樹木や花壇の手入れ管理状況が高評価であった。広大な敷地・施設の老朽化等、こどもの国の状況を鑑みるに、この評価の高さは、職員育成（多能化）や日々の努力の積み重ねの賜物と察するところである。

● 改善事項

富士山こどもの国の公園は、富士山麓の雄大な自然の中で、「遊ぶ」「学び」「育む」「交流」できる場として開設され、現在に至っている。引き続き、「富士山こどもの国」の持つ資源（自然・広場・動植物・富士山ビュー等）を活かした事業の充実と可能性についても検討されたい。

- ①猛暑の日よけ対策（萱を活かした日よけの設置、パラソルのレンタルなど）の実施
- ②宿泊施設を活用も含め、雨天でも楽しめる事業の検討
- ③こどもの国から見える「富士山」を活かした魅力の発信
- ④学齢前の子がいるファミリー層のニーズ把握に基づく利用しやすさ（サービス）の充実
- ⑤より多くのこどもたち（障がい児のためのイベントも含めて）が享受できる「こどもの国」の資源活用と社会貢献の可能性の研究（情報収集）と検討

● 機能別の評価

A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

体験教室や各エリアで遊具の充実、季節や歳時記に合わせたイベント、野外スポーツ、広場を活用したイベントの実施など、多種多様な遊びの機会を提供した。新規プログラムとして、夏場の雪の丘を活用した芝滑り「ポッカル」や、家族みんなで参加できるプログラム「ものづくりWS」や「まきばのやぎの散歩」に取り組んだ。こうした事業への参加人数の実績が、目標値を大きく上回っている。宿泊利用者向けの、ホテルや星空の観察会は好評であったが、新たに実施した朝の外乗乗馬は悪天候の影響もあり参加者数は伸び悩んだ。

インバウンド向けの取り組みについては、情報発信に努めた。この課題については、アクセスの困難性もあり、旅行業者との連携の可能性を探っている状況である。

B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

自然観察会、自然学校、ホテル観察、収穫体験と食のイベントを、公園内の植物や野鳥、昆虫など様々な題材をテーマに行い、全てのイベントで、目標人数を上回る参加があった。

動物広場では、引馬体験や餌あげ体験、小動物とのふれあい体験が人気だが、園内での遊びの充実と悪天候が、牧場の利用に影響を及ぼしている面もある。

園内の動植物の情報を、SNSやHP（園内のいきもの）を活用し、積極的に発信した。

C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

GWイベントにおける、地元高校（富士市立高校）による駄菓子や雑貨の販売（吉商本舗）や他3高等学校による吹奏楽やチアダンスなどの発表の場を提供した。

余暇活動や健康増進の場や機会の提供として、体操教室、ノルディックウォーキング講習会、サッカー教室、オリエンテーリング大会、リトミック教室などを行い、各会ともに目標値を大きく超える参加があった。

外部団体による大型イベント（Mt. FUJI100：3000人、FUJI&SUN'25：8000人、トレイルランナーズカップ：500人）や合宿の受け入れも行った。

D 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

園内の様々なイベントや事業の運営は、地域のボランティアを始めとする各種団体等の方々の継続的な参加を得て行われており、参加人数については、目標値をおおむね達成している。

また、小中高等学校・幼稚園・保育園の行事利用も促進し成果を上げている。

自治体や公共機関との連携で、フェアやイベントを実施するほか、FUJI&SUNなど外郭団体等の大型イベントの受け入れなども積極的に行っている。

新たな地元企業との協働事業として、日本製紙（雑草防止地面コーティング実証）、TAM IYA（ミニ四駆講習会と実走体験）のほか、全日本鹿協会（有害鳥獣の被害と有効利用）、静岡銀行（キッズアカデミー）、テラインコグニタ（グラベルバイク大会）に取り組んだ。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

定期利用者アンケートは、計画どおり実施し、利用者ニーズの高い項目について、対応可能なところから改善に努めている。

利用者・利用団体・設置者とのヒヤリングに積極的に取り組まれている。回数もさることながら、丁寧な対応が、地域団体等との継続的な連携や協力関係を築いていると評価する。

利用者のニーズに合った利用時間の設定については、利用者数の多いGW・お盆・秋の三連休の中日などに、臨機応変に対応した。

子育てファミリー層への支援サービスとして、授乳室・レンタルベビーカーの充実に努めている。きめ細かくターゲット層のニーズ把握に努めることで利用者（リピートも含め）増が見込まれると考える。

園内施設でキャッシュレス対応を進め、街のレストラン券売機やおもてなしキャスト導入、ホテルロジにフリーWi-Fi設置のほか、昨年（6か所）に加えて水の国の売店とイベントにキャッシュレス端末を2か所増設した。特にデジタルサイネージ設置（こどもセンター、草原の家）にあたっては、ホテルロジの受付の待ち時間削減にも大きな成果を上げている。

F 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

SNSの活用、マスコミへのプレス、ウェブメディア、LINE、WEB広告による情報発信に積極的に取り組んだ。新規取組としては、夏のオンシーズンは、初めてTVer（静岡・神奈川・山梨）で38万回配信、テレビ神奈川にTVCMの放映（80本）、新富士駅観光案内所に英語字幕付動画放映、ラジオ局とのコラボイベント（公開収録）などを行った。

更に、各利用者層（年代・来園手段・来園同行者・来園目的・利用施設でグルーピング）への情報入手手段調査などを行い、効果的な情報発信に努められたい。

「こどもの国へ行ってみたいくなる情報」と「来園した方への本日の園内で楽しめる情報」など、情報を活用する具体的な対象や場面を想定し、「おすすめ5プラン」の提案など、分かりやすく案内されている。今後も、来園の決め手となる情報は何かをリサーチし、園内での楽しみ方の提案、次回の来園にもつながる情報（のおみやげ）、なども充実させ、新規利用者増、リピーター増につなげていただきたい。

G 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

富士山ビューテラスを設置し、カフェとして運営するほか、新たなプログラム（夏場の雪の丘を活用したポッカール芝滑り、外乗乗馬）の提供にも取り組んだ。

アウトドア宿泊施設の利用は、週末の雨によりキャンセルが増加、アウトドア離れの影響も見られ、目標値はおおむね達成しているものの、利用者数は伸び悩んでいる。バーベキュー施設も猛暑や雨の打撃を受けている。宿泊者へのホテルや星空観察会は好評だが、新規の朝の外

乗馬体験は今後の利用者増を期待する。引き続き、自然現象の影響やリスクに対応できる施設運営が求められる。あわせて、猛暑や雨天に対応する屋内のプログラムの充実にも引き続き、取り組まれない。

レストランのメニューは地場産品を積極的に取り入れており、四半期ごとにメニューを見直し、時節に合わせて提供している。GWや夏休みなどの繁忙期には、待ち時間が少ないメニューを工夫している。今後は、井戸水（富士山伏流水）を活かした「富士山伏流水で入れたコーヒー」などのメニューも売りにしたいところである。

売店で扱う品物については、マルシェなど園内イベントで好評だった品物（WSインストラクター作品・地元産品など）や園内で収穫された作物、傘などの実用品を、季節ごとに入れ替え販売している。

H 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

猛暑対策に積極的に取り組み、日影やミストなどを設置した。

施設・設備ともに経年劣化が激しいため、日常点検・定期点検で異常箇所を早期に発見し、特に耐用年数が経過している施設・設備については、積極的に点検・補修することで、安全確保に努めている。樹木や花壇の管理についても利用者の評価が高い。

広い園内で、様々な事業を安全・安心に実施していくための、日常の点検・修繕・維持管理等に取り組まれていることは高く評価する。

今後も、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設・整備の長寿命化を図りつつ、公園緑地課と協議を行い、必要な措置を講じられたい。

利用者評価の比較的低かったトイレの項目は、施設の老朽化が影響していると思われる。視察では、昨年より改善された印象を持った。トイレは、レジャー施設の利用満足度につながる大きな要素である。引き続き、洋式化・ウォシュレット設置を含め、トイレ環境の整備には、優先的に取り組まれない。

また、施設利用にあたっての、送迎サービスの充実は特にシニア世代の来園者増に寄与しており、園内交通の充実とともに、利用者の利便性の向上に寄与されたい。

5 小笠山総合運動公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

小笠山総合運動公園は、エコパスタジアムやアリーナをはじめとする多数の運動施設や広大な森林を有する静岡県西部を代表する運動公園である。開設以来、静岡県内をはじめとする多くの利用者が競技スポーツや音楽イベントなどの文化活動に参加し、心身の両面から健康増進やQOLの向上に取り組んでいる姿が見られる。

昨年度は公園利用者数の年間目標 1,100,000 人に対し、1,141,068 人の利用があった。このように本公園では例年、多くの利用者がみられるが、今年度の施設運営に関する特徴として、スタジアム本体が9月以降、工事のため使用できなくなった点が挙げられる。しかしながら、今年度の利用者数に関しては中間目標 724,000 人に対し、980,581 人と大幅に上回っている。これは、例年9月以降に実施しているイベント等を8月までに集約させたことや、5月に大型のスタジアムコンサートである「Stray Kids World Tour」が開催されたことが大きな要因である。土日に連続して行う2 days形式を2週連続で行うという未知の方式での開催となったが、過去に開催した大型音楽イベントの経験を活かしながら無事に実施し、主催者発表で約22万人の観衆を集め、収益面でも大きな収穫となった。

スポーツイベントでは、例年同様にサッカーやラグビーのプロクラブの公式戦や陸上競技の国際大会が行われたり、「わかふじスポーツ大会」等のパラスポーツ大会の会場にもなり、「共生社会」の実現へも寄与できたと考える。

このような現状は、多くの利用者に一定の満足感を与えており、アンケートによる利用者満足度は、昨年度を上回る4.58（5点満点）であったことから、多くの利用者がストレスなく公園で活動している様子が窺える。

周辺地域との関連に目を向けると、地元である袋井市の小学生へは広大な森林での自然環境学習の機会を提供しており、スタジアムでは市内中学生の「職業体験」や高校生の「校内体育大会」を実施している。本公園は、自動車メーカーの試走会場や自衛隊の訓練場などにもなっており、今後も幅広く地元住民への貢献を継続していってほしい。

安全管理や快適な施設運営といった点については、園路や芝生、トイレ等のアンケートによる利用者満足度が4.60と極めて高く、事故件数報告やバリアフリーに関する苦情がなかったことから指定管理者の日々の丁寧な点検・管理が推察されており、今後も継続されることを願いたい。

● 改善事項

次年度以降の改善事項として以下の6点を提案する。

- ①更衣やシャワー等が行えるスペースや施設の増設
- ②日陰や雨天のための屋根付き休憩スペースの増設
- ③今年度減少した広報回数の回復
- ④メンテナンス等を潤滑に行える施設使用料の設定や指定管理料補助の検討
- ⑤施設の老朽化への対応及び気候変動・災害への対策
- ⑥施設内のトイレの継続的改善（洋式化等）

● 機能別の評価

A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

スタジアムや補助競技場、アリーナ等の充実した運動施設を有する本公園では、今年も多数の大会が開催され、県民のスポーツへのニーズに応えてきたと考えられる。

サッカーではJ2リーグ戦：ジュビロ磐田対愛媛FCが6月に開催され、約27,000人を超えるサッカーファンが観戦した。J2リーグの中でこれほど多くの観客数になる試合は珍しく、「サッカー王国静岡」の多くのサポーターに対応した事例であった。エコパスタジアムは、2026年度に開催されるアジア大会in愛知・名古屋のサッカー競技の会場の一つとなっている。サッカーW杯だけでなく、過去にラグビーW杯など多くのスポーツイベント開催してきた知見を活かし、組織委員会、アジアサッカー連盟や県サッカー協会と開催準備をより密接に行い、無事開催されることを期待している。ラグビー・リーグ1における4月のブルーレヴズの公式ゲームは、約2年ぶりに実施されたものであり、昨年度は台風により中止された慶應義塾大学対同志社大学のラグビー定期戦も開催された。陸上競技では例年同様、5月に「静岡国際陸上」が開催され、今年度は男女の100m競技が加わり、観衆を楽しませることができた。

アマチュアや育成年代のアスリートに関しては、東海地域の大学生が参加する陸上競技の「東海インカレ」やアリーナで8月に行われた「全日本歯科学学生総合体育大会」、県の高校総体予選ではサッカー、ラグビー、バスケットボール、アーチェリーなど多くの種目が実施された。更に今年度開催された第26回静岡県障害者スポーツ大会「わかふじスポーツ大会」の会場として、従来実施していたパラスポーツ種目に加え、電動車椅子サッカーやボッチャ、フライングディスク等新たな種目を開催することもでき、今後も県内スポーツにおける「共生社会」の実現に寄与していただいたい。

B 地域利用・多目的利用の推進

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度の特記事項として、5月に大型のスタジアムコンサートである「Stray Kids World Tour」を開催がある。2 days 形式を2週連続で行う方式での開催となったが、過去に開催した大型音楽イベントの経験を活かしながら無事に実施し、主催者発表で約22万人の観衆を集めることに成功した。

今年度の地域利用に関しては、スタジアム本体が9月以降、工事のため使用できなくなったため、その点を考慮しながらの運営となった。近年開催していた周辺地域の高校による「校内運動会」は開催希望時期として9、10月が多いため、アリーナで開催するなど調整を余儀なくされた。そのような状況下においても、今年度は新たに通信制高校のサブアリーナでの体育大会を実施した。来年度以降も周辺市町での教育委員会や校長連絡会などに足を運び、平日の施設利用の勧誘を強化していただいたい。

スタジアム工事の影響はあるものの例年行われている数多くのイベントの多くは無事に実施された。具体的にはキッチンカーフェスティバル（6月）や公園の自然や広大な森林を活用した「エコパ・謎解きウォーク」（10月・11月）等であり、新規イベントとしては映画上映会である「エコパでシネマ」も開催され、参加者からは好評を得ていた。

C 地域・企業との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

現在、袋井市の小学生を対象として行っている自然環境学習会をはじめとして、幼稚園、保育園、放課後デイサービス等からも依頼が多く届いており、次年度以降本施設の有する自然を活かした学習機会を幅広く提供していきたい。また、中学生にはスタジアムの座席清掃等を含む「職業体験」の場として本施設を活用してもらっている。例年同様、公園内にある駐車場「P 9」では二輪、四輪のカーメーカーやサプライヤーが実走テストを行っており、大会会場は名古屋に移転したものの「学生フォーミュラー」の試走場として連日大学生が活動に取り組んでいる。

昨年度から始まった県森林連合会の「森林技術者養成事業」や静岡県林業会議所の活動も本施設の広大な森林と利便性を活用して実施されている。他にも本施設の「エコパの丘」や「みはらしの丘」では自衛隊の訓練が行われており、地図から地形を読み解く能力育成に寄与している。本施設的环境維持の一環として小笠山の土砂流出防止柵は天理教のボランティア約 80 名に作成してもらったものである。来年度以降も周辺地域との連携を深めていってほしい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本公園では、トップレベルのアスリートをはじめ、一般のスポーツ愛好者までもスタジアムやアリーナ等の充実した環境で競技に取り組める。今年度は、老朽化したスタジアムの座席 200 席を新しく交換する等、安心して「見るスポーツ」を楽しめる環境整備にも注力した。一方で、利用者からの主要な要望の一つは、「更衣室やシャワーのあるロッカールームの設置」や「日陰などの屋根のある場所」などである。本公園は競技自体を実施するグラウンドやアリーナはあるものの、更衣や休憩、大会運営等に必要となる直射日光や降雨を回避できる場所が不足していることが推察される。これらの施設の充実が快適なスポーツ活動の実施のみならず、熱中症や低体温症への対応に不可欠であり、今後の改善を検討する必要がある。施設利用者のアンケートにおいて改善の要望が多かったトイレに関しては、仮設トイレであった「P 1」での工事が終了し、常設トイレとなり利用者からの評価も高い。公園内のトイレの「洋式化」においても県と相談しながら継続的に進めていくことをお願いしたい。

E 公園の魅力の広報

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績比で見た場合、広告・新聞等の掲載回数は、昨年度 17 回、今年度 10 回であった。同様に、TV・ラジオは昨年度 201 本に対し今年度 152 本、SNS や動画の配信は昨年度 115 回に対し、今年度は 79 回と減少が見られる。これは、8 月～3 月に行われたスタジアムの補助競技場の工事の影響等やむを得ない事情によるものと考えられ、次年度以降の回復を期待する。公式HPに関しては、5 月のスタジアムコンサート「Stray Kids World Tour」に関する問い合わせが殺到することを予測し、サーバーの高負荷対策を行った。その結果、5 月のみのPVが 145 万回にも関わらず、通常の情報提供が行うことができ、今年度の公式HPのアクセス数は昨年約 250 万から約 352 万と大幅な増加となった。来年度以降も大型イベント開催時は今回の知見を活かし、利用者への潤滑な情報提供を維持していただきたい。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

本施設の収益に関しては、音楽コンサートやサッカーやラグビー、陸上競技等の国際大会やプロチームによる公式戦などいわゆる大型イベントの状況に強い影響を受ける。中間実績比を見たとき、大型コンサートの開催回数は、アリーナ工事のため、昨年度の14回から13回と減少したものの参加者数は271,020人から439,386人と大幅に増加している。これは先述した5月の「Stray Kids World Tour」において、開設以来最大の一公演あたりの利用者数を記録したことが要因となっており、収支の面でも多大な恩恵を受けた。

スポーツイベントに関しては、従来の試合開催に加え、今年度はファン感謝イベントを積極的に誘致し、収益向上に取り組んでいた。今年度は、6月に静岡ブルーレヴズ、7月にジュビロ磐田のファンサービスイベントを開催したので、来年度以降、静岡県内の様々なスポーツチームに同様のイベント誘致を行ってみたい。

昨年度も指摘した点であるのだが、高齢者のトレーニングルーム利用の無償制度をはじめとする施設利用料金も今後見直しが必要ではないかと思われる。高齢者の健康増進や幅広く県民に利用してもらうために廉価な設定が必要であることは理解できるが、一方で近年の物価高騰や器具のメンテナンス等を考慮し、適切な使用料の徴収が実施できるよう県からのサポートをお願いしたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者が安心して施設での活動に取り組めるように日々、多様な点検・管理を実践し、今年度も事故報告数が0件であったことは大きく評価できる。また、ユニバーサルデザインを活用したり、バリアフリーを基本とした空間の創出を行い、関連する苦情がなかったことも同様に高く評価されるべきであろう。近い将来の発生が予測されている「南海トラフ地震」や近年頻発するゲリラ豪雨などの天災や猛暑に対する「安全対策ガイド」をスタジアム版、アリーナ版と施設ごとに作成していることは利用者には心強い安心感を与えるものである。今後も利用者目線での点検を継続し、大きな森林地域をはじめとして広大な空間を有する本公園の安全管理に継続して取り組んでもらいたい。

6 吉田公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者数は、中間目標の70,000人に対して、実績は66,513人と目標には届かなかったものの昨年の56,827人に比較するとやや回復した。

7～8月が酷暑の影響で利用者数が大きく落ち込むのは例年同様であった。地球温暖化の影響で今後もこの状況は続くと思われる。今年度、酷暑対策としてミストの散布も検討したが、水道水でないため衛生上の問題で断念した。風鈴の設置で涼しさを演出する試みもしたが大きな効果は得られなかった。引き続き水場の整備ややすらぎの庭・香りの庭・ビオトープ池などの木陰での涼しさの演出などで夏場の利用者を増やす試みを期待したい。

公園の管理面では、芝生や樹木は行き届いた管理がなされている。芝刈機・草刈り機の活用による効率化も図られている。ビオトープ歩道のウッドチップ敷設や園内樹木への名札（紹介カード）の設置など利用者へのサービス向上にも努めた。一方で強風被害（台風10号）により案内看板・フェンス・ビニールハウス等の破損、倒木もあり伐採費用等として60万円が支出された。

集客面では昨年度まで開催されていた大型音楽イベント「頂」の終了や当公園の目玉のチューリップ祭りの中止などの影響が大きい。

また、20年間続いた現指定管理者が来年度から変更となることから公園運営にとって大きな変革期を迎えている。

現指定管理者の長年の実績と努力は称賛に値する。新指定管理者には現在の吉田公園の魅力を継承しつつ、独自色を出した新たな取組を期待したい。

● 改善事項

昨年度は改善事項として「親子連れが楽しめる環境整備」と「人と飼い犬の共存」の2点を挙げさせていただいた。

「親子連れが楽しめる環境整備」については、予算の関係もあり十分な対応が図れなかった。

アンケートでは、昨年同様子供を遊ばせることができる遊具の充実を望む声が多く聞かれた。

「人と飼い犬の共存」については、ペット連れの飼い主に対する注意喚起によりややマナー向上が図れたもののまだ不満を感じる利用者が多い。マナー改善が進まないようであれば犬のトイレやドックランの設置など人と犬のゾーンをある程度分離する必要があるかもしれない。

指定管理者が変更することを踏まえて今年度は、改善事項としての以下の点を挙げる。

- ① チューリップまつりの再開又はそれに代わる新たな中心イベントの開催
- ② ボランティア団体の再編
- ③ 子供の遊べる遊具、水場の整備（継続案件）
- ④ 人と飼い犬の共存（継続案件）

また、駐車場の有料化に関しては、駐車場の常時有料化を容認する回答は5%にすぎずイベント会場やスポーツ施設ではないという公園の性質とリピート客が8割以上を占める現状から有料化はなじまないと感じる。大型イベント開催時の利用者は普段の利用者と異なるため

混雑の予想される大型イベントの開催時のみ有料化とする方向性が現実的である。

● 機能別の評価

A 花や緑に親しむ機会の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ **B** B⁻ C⁺ C C⁻

利用者から要望の多かった樹木・花の紹介札については昨年度から取組を開始し、今年度は園内樹木に樹木の名前・特徴等を記載した名札（紹介カード）を700個設置した。公園が児童等の学びの場としての機能を持つことで幼稚園や小学校の遠足や観察会、写生会の誘致が期待される。

また、たねダンゴ大作戦、花壇コンクール、レイズドベッド花壇の花植えなど1年を通して花と触れ合う機会が多く設けられ、更に親子さつまいも栽培体験、親子じゃがいも収穫体験など親子で参加できる企画が設けられていることは評価したい。特にたねダンゴ植栽は、好評で新規の8団体を含む23団体が参加した。

野鳥観察スポットとしてのビオトープ池周辺やアサギマダラのスポットはその存在が浸透しつつあるが、引き続きPRを行い吉田公園のシンボルとして定着させてほしい。

残念だったのは吉田公園の目玉イベントである「チューリップまつり」が、球根の価格高騰により中止されたことである。年間の利用者数の3～5割を占める集客力を有し、チューリップの公園としての吉田公園を象徴するイベントであるため次年度以降、何らかの形で継続するか、継続が困難な場合はそれに代わる目玉となるイベントの検討が必要である。

B 地域住民の利用促進

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

昨年度もコメントさせていただいたが公園の利用促進に関しては、ある程度広域な地域をターゲットとしたイベント中心の誘客と近隣の地域住民をターゲットとした日常的な賑わいづくりの二つの側面から戦略を考えていただきたい。

広域な地域をターゲットとしたイベントであったチューリップまつりが球根価格の高騰により、ハッピーハロウィンが悪天候により中止されたことは残念だが、正月のフラワーアレンジメント教室、お月見コンサートなどは開催された。

近隣住民の利用に関しては、ウォーキングや子供の遊び場としての利用層と犬の散歩の利用層の二つに大別される。

昨年度、改善事項として挙げた「ペット連れとそれ以外の利用者の共存」については、飼い主へのマナーの呼びかけにより若干は改善したが、アンケートでは依然として犬の糞や長い犬用リードで走り回る犬を不快に感じる利用者も多い。利用者によっては事故の心配や走り回る犬に恐怖感を抱く可能性もあり安心してくつろげない。現状のままで問題が解決しないようであれば、ドックランの設置などで人と犬を区分するゾーニングが必要になるかもしれない。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティアの参加は、上半期274人（目標200人）と昨年の245人を上回る参加を得た。

しかし、指定管理者の変更に伴い既存のボランティア団体は解散すると聞く。

「新しいスタイルの県民参加の公園運営」という当公園の設置目的から、ボランティアの参加は公園運営の要であるためボランティア団体の再編は必須である。

従来からボランティアの高齢化が課題であった。新たなボランティアの募集にあたっては、将来を見据え若い人や親子で参加しやすいオープンな雰囲気づくりや活動内容の SNS での発信などに努めていただきたい。

遠足等の利用は、幼稚園・中学校・福祉施設・一般団体と幅広い団体が利用している。特別支援学校の作業学習や地元中学校の職業体験学習なども積極的に行われ、地域との連携はよく図られている。9 月には吉田中学校の生徒 6 名が職業体験として除草作業、園内パトロール、イベント準備などに携わるなど貴重な体験の場として活用されていることを評価したい。

また、牧之原市の扇松堂の菓子作りのワークショップ「いと、お菓子」が開催された。地元企業との連携も更に広げていただきたい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ **B** B⁻ C⁺ C C⁻

樹木への紹介カード設置や公園ガイドマップのリニューアルなど利用者へのサービス向上に努めている。

近年増え始めているウェディングフォト利用者（上半期 30 件）に対して、着替え場所・控室として自由工房・研修室を活用するなど新たな需要に対し、より利便性の高いサービスを提供している点は評価される。

アンケート調査の結果から読み取れる利用者ニーズとして昨年度同様、「子供が遊べる遊具の充実」が挙げられていた。

他の公園の平日の利用者は未就学児を連れた母親が多い。この層の利用が少ない原因は子供を安心して遊ばせることができる遊具がほとんどない点にある。子供を遊具で遊ばせて、母親同士が会話を楽しむ交流の場として他の公園は利用されている。吉田公園の最大のウィークポイントはちびっこ広場の遊具不足である。老朽化した遊具は危険でもあるので県としてぜひ、遊具の増設・リニューアルのための予算をお願いしたい。

昨年度と同様の指摘となるが水遊び場が使われていない状態は、いまだ続いており見た目も不衛生で公園の雰囲気を損なっている。衛生上の問題で水遊び場として使うのが無理なようであればクールスポット（緑陰施設）や休憩スペースとして活用したり、花壇化するなど何か別の用途を考えたほうがよい。

喫茶に関しては、昨年度、公園カフェとして「プルメリア」がオープンした。土・日・祝日のみの営業だが採算性を考えるとやむを得ない。来店者数はイベント時は 20 名を超える日が多いが、それ以外の日は休日であっても 10 名以下となっており夏場は 5 名以下の日もある。利用者には好評のようであるので利用者への周知を徹底したい。テークアウトにより公園のベンチや休憩スポットで飲食している姿が見られれば PR にもなる。オープンカフェなども検討されたい。

E 公園の魅力の広報

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

テレビ・新聞等の掲載件数は目標をやや下回った（上半期目標 10 件実績 8 件）が、Instagram のフォロワー数は増加（194 人増）している。公式 LINE の配信にも新たに取り組むなど、SNS の活用に力を入れている。投稿内容は、公園のイベントや花の開花の情報、アサギマダラ、野鳥の様子など充実しており公園の魅力を十分に伝える内容となっている。Instagram のエンゲージメント率は 7～10% で一般的に優秀とされる 5 % 以上の数値を示しており、ユーザーの

反応の良さが表れている。

一方で 60 歳以上の高齢の利用者が 4 割以上を占める現状から、チラシやポスターなどアナログでの P R も継続的に力を入れていただきたい。

また、ウエディングフォトの利用者が急増し、写真スポットとして注目されていることも上手く P R し誘客につなげていきたい。

F 収益向上への取組

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

イベントに関しては「吉田町みどりのオアシスまつり（4 月）」、「めだかフェス（5 月）」、「クラフトフェア（10 月）」、「バイブズミーティング静岡（10 月）」、「吉田野営（11 月）」などの誘致に成功した。

定番化したイベントも多いが、新規としてバイカーのキャンプイベントである「バイブズミーティング静岡」を誘致できたことは大きい。昨年度で終了してしまった音楽大型イベント「頂」の収益減を埋めるイベント誘致を図りたい。大型ではなくても吉田公園の自然環境を活かした吉田公園ならではのイベントが数多く誘致されることを期待したい。

ウエディングフォトの利用も有料で行っているようであり、その他にも有料化できるサービスが提案できるよう工夫をお願いした。

以下は昨年同様の内容であるが自動販売機は、大きな収入源であるとともにカフェを営業していない平日の飲食提供を補う重要なアイテムでもあるので、今後も充実することが望まれる。

今年度は自販機・カフェの設置を案内するのぼり等が設置されていた。

人件費や物価の上昇は更に加速しつつあり大幅なコスト増となっている。公園設置者の県におかれては、指定管理者に大きな負荷がかからないよう指定管理料の見直しについて十分な配慮を願いたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

やすらぎの庭やビオトープ周辺の伐採や剪定・草刈により、見通しも良くなり日差しも取り込まれ以前の鬱蒼とした雰囲気は払拭された。また、ビオトープ周辺はウッドチップの敷設により、より歩きやすくなった。

上半期には、テーブル・ベンチの補修や遊具の保守点検などを実施し、施設の安全管理に努めている。

津波発生時の高台への誘導看板設置や避難訓練の実施など災害時の対応について準備を行っているが、日本各地で地震が頻発し南海トラフ地震への危機感が高まる中、利用者の安全安心を図るためなお一層の取組をお願いしたい。

また連日、熱中症警戒アラートが発せられる夏場においては熱中症対策及び熱中症にかかった方の救護体制についても十分な整備を図ってほしい。

7 浜名湖ガーデンパーク

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、第4期指定管理期間の初年度かつ浜名湖花博2024のレガシー継承の年として、全体最適を掲げた新たな挑戦に取り組んだ。特筆すべきは、管理運営体制の抜本的な構造改革である。従来は工区別であった植栽契約を一本化し、新たに「植栽戦略会議」や「営業展開会議」を設置することで、縦割り業務を見直し、園全体を俯瞰した統一感のある景観形成と管理の効率化を同時に推進した。また、近年の気候変動を踏まえ、開園時間延長の実施時期を猛暑の夏から集客の見込める春へ変更するなど、利用者視点に立った柔軟かつ合理的な判断がなされた点も、運営の成熟を感じさせる。

これらの改革を基盤に、新たな魅力づくりと収益力の強化にも挑戦し、着実に成果に結び付いている。魅力づくりにおいては、「音楽のまち浜松」と連携したイベントや、ドッグランの新設計画、アサギマダラ飛来地づくりなど、既存の強みとトレンドを掛け合わせたコンテンツ開発が進んだ。収益面においては、マルシェ出店料の歩合制への移行やイベント運営協力金の導入など、受益者負担の適正化と稼ぐ力の強化が図られ、効率化と収益化を両立させようとする姿勢が明確に見られた点は高く評価できる。加えて、運営を支える基盤づくりとして、ボランティア活動の質的向上による協働体制の深化や、プロによる映像資産の蓄積が進んだことも、今年度の大きな成果である。

公園利用者数は中間実績では利用者数627,741人と、目標とした公園利用者数759,000人を下回る結果となった一方で、アンケート調査による利用者満足度については、4.53と昨年度の4.24を上回る結果となった。

今後は、今年度構築した「全体コンセプト」や新たな収益モデルを定着させるとともに、広大な敷地という強みを活かしつつ、ソフト・ハード両面からのアプローチで更なる満足度向上を目指していただきたい。

● 改善事項

- ・ 魅せる植栽の展開と鑑賞期間の最大化

利用者アンケートで飲食分野が課題とされる一方、総合満足度が高水準なのは、本公園の核心的価値が圧倒的な花緑にあるからに他ならない。魅力の源泉である花緑の価値を最大化するため、既に着手している魅せる植栽の展開と技術的工夫による鑑賞期間の延長に継続して取り組まれない。また、SNS映えやイベント連動を意識した攻めの植栽と、動画資産等を活用した戦略的な広報を組み合わせ、公園の最大の強みを伸ばし続けることを期待する。

- ・ 新規コンテンツの定着化とドッグラン導入に向けた環境整備

今年度好評を博した音楽イベントや早朝ヨガなどの新規コンテンツを持続可能な魅力として定着させることが課題となる。また、来年度以降に整備予定のドッグランについては、ハード面の整備に加え、利用ルールの策定や一般来園者とのゾーニング、マナー啓発といったソフト面の準備を周到に進め、既存利用者との共存を図られたい。

- ・ ボランティアの新陳代謝と教育・地域連携の深化

ボランティア活動の持続可能性を高めるためには、人材の固定化を防ぎ、多様な世代を取り込むことが重要である。若年層や現役世代が単発からでも気軽に参加できるような関わりしるを創出し、人材の新陳代謝と多様性の確保に努められたい。また、減少傾向にある学校利用については、探究学習やSDGs学習等のニーズを掘り起こし、次世代が公園運営や課題解決に関わる機会を創出することで、地域連携の深化を図ることを期待する。

- ・ 体験・飲食・物販を連動させたセット販売による消費単価向上と滞在時間の延長
収益力の更なる強化に向け、単体のサービス提供にとどまらず、複数のコンテンツを組み合わせたセット販売の検討を進められたい。既存の資産を有機的に組み合わせ、利用者が園内で複数のサービスを利用したくなる仕掛けを作ること、客単価の向上と滞在時間の延長を図り、新たな付加価値を生み出す企画開発を期待する。
- ・ 広大なフィールドを誰もが楽しめる情報のバリアフリー化
広大な敷地は魅力である反面、移動の負担ともなり得る。ハード面の広さをソフト面の案内でカバーするため、今後はよりユーザー目線に立ったきめ細やかな案内が求められる。ターゲットごとのニーズに即したルート提案や、どこに行けば快適に過ごせるかの可視化を進め、誰もがストレスなく回遊できる環境づくりを推進していただきたい。

● 機能別の評価

A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は浜名湖花博2024の資産継承に加え、植栽管理における構造改革を断行した点が特筆される。従来工区ごとに分かれていた植栽契約を一本化し、新たに「植栽戦略会議」を設置したことで、園全体を俯瞰した全体最適の視点での管理が可能となった。この新体制により、「全体コンセプト」や「ローズガーデンコンセプト」等の策定が迅速に進み、統一感のある景観形成と業務効率化を同時に実現した。また、フジバカマの植栽による浜名湖エリア最大級のアサギマダラ飛来地づくりや、コキアなどの話題性のある植栽展開も積極的に行われ、来園者に新たな発見と感動を提供した点も高く評価できる。

今後は、今年度構築した実施体制を基盤とし、新たに策定した「全体コンセプト」をより具体的かつ継続的に現場へ落とし込むことが求められる。特に、現場レベルでのミーティングや意見交換を通じたPDCAサイクルを徹底し、管理品質の更なる向上を図られたい。また、花ひろばを彩るネモフィラ、ヒマワリ、コスモスといった花のリレーについて、品種選定や管理技術の工夫により鑑賞期間の最大化を継続して目指すとともに、コスモスハロウィンやヒマワリ迷路、SNS映えを意識した植栽配置など、若年層や新規層を取り込む植栽計画も引き続き強化していただきたい。維持管理にとどまらず、常に新鮮な驚きを提供する魅力ある庭園づくりへの挑戦を継続することを期待する。

B 多様な体験の場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、地域イベントの誘致・健康プログラムの提供は目標値55回に対して128回、自然学習プログラムの提供は目標値3回に対して5回と、ともに目標を上回った。今年度は、「音楽のまち浜松」という地域特性を活かし、グランドピアノの寄贈を受けて「第1回浜名湖GPミュージックフェスティバル」や花の美術館ガーデンライブ「あなたとバラと音楽と」を開催するなど、花と音楽を融合させた新たな空間価値の創出に取り組んだ。また、昨今のペッ

ト同伴需要の高まりを的確に捉え、県とともにほほえみの森エリアにドッグランの設置を計画するなど、新たな顧客層の開拓に積極的に取り組んだ。加えて、酷暑を避けた早朝のネイチャーヨガ、夏休みのこんちゅうクンコライベントなど、季節やターゲットごとの興味関心に合致した多様なプログラムを展開した。一方で、猛暑期のグラウンドゴルフ利用を中止するなど、利用者の安全を最優先した柔軟かつ適切な運営判断を行った点も評価に値する。

今後は、音楽イベントなどの新規コンテンツを単発の開催で終わらせることなく、持続可能な魅力として定着させることが課題となる。また、計画中のドッグランについては、来年度以降の整備に向け、利用ルール策定やマナー啓発といったソフト面の準備を先行して進めることが求められる。具体的には、愛犬とともに楽しめる花緑散策ルートの提案や、音楽イベントと開花ピークの精緻な連動など、既存の最大の強みである圧倒的な花緑と体験を有機的に掛け合わせた企画を強化されたい。来園者が何度訪れても新しい発見がある仕組みを構築し、一過性の集客からリピーターの定着へとつなげる工夫を期待する。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績において、花・緑の管理、施設運営、体験教室のボランティア活動の延べ人数が3,687人と、昨年度に引き続き目標を上回る成果を上げた。ボランティア活動の質的向上にも注力し、大規模な研修旅行を実施するなど、モチベーションとスキルの底上げを図っている点も評価したい。また、ポタジェやワイルドガーデン等の管理においてボランティアの裁量を拡大し、指示待ちではない自主的な活動を促進した点は、公園と市民との協働の在り方を深める取組として高く評価できる。地域連携においては、地元の学校・施設とのコラボイベントを実現し、地域資源を有効に活用したほか、浜名湖地域情報コーナーの利用が目標値90団体に対して100団体を超えるなど、継続した取組が強化されている。

一方、学校教育等での利用については、部活動の見直しなどの影響を受け、利用した学校等が1校と想定を下回る結果となった。今後は、総合的な探究の時間やSDGs学習、キャリア教育等のフィールドとして公園を活用する提案も検討されたい。生徒が企画・運営に関わる課題解決型学習の機会を提供することは、学校側の教育ニーズとも合致し、若年層による新たな魅力発信や将来的なファン層の獲得にもつながると考えられる。また、固定化しがちなボランティア層に加え、コラボイベントを契機とした若年層や現役世代など、新たな層が単発からでも気軽に参加できる仕組みを整え、多世代交流型のプロジェクト創出や持続可能なネットワークの拡大に努めていただきたい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者アンケートにおける総合満足度は4.53となり、昨年度の4.24から向上した。項目別に見ると、各施設の清掃状況が4.5、樹木・花壇の管理状況については4.4と特に高い評価を得ており、広大な園内が隅々まで美しく維持されていることや、スタッフの丁寧な対応が、来園者の高い満足感に直結していることが窺える。一方で、飲食に関する項目は他項目と比較して3.7と評価が低く、積年の課題となっている。自由記入による欲しい施設の要望についても、食堂やカフェ（軽食・売店含む）などの飲食施設の充実を望む声が多く、次いで、ベンチや日陰などの休憩・快適環境の整備を求める声が多く挙がった。

運営面での特筆すべき取組は、昨今の酷暑への適応である。開園時間の延長期間を、猛暑により利用が敬遠されがちな夏（7・8月）から、気候が良く花緑の鑑賞や散策に適した春（4・5月）へ変更したことは、利用者の安全性と快適性を最優先した攻めの暑さ対策として高く評価できる。併せて、水遊び広場の拡張やミスト設備の最大化、日陰ベンチの増設など、ハード

面での暑さ対策も的確に実行された。

気候の良い時期へのシフトにより、今後は来園者の滞在時間が伸長することが見込まれるが、それは同時に、課題である飲食需要の更なる高まりを意味する。現在はキッチンカー誘致やコンテナハウス店舗の出店により対応を進めているが、アンケートでは手軽なカフェから本格的な食事まで幅広いニーズが寄せられている。今後は、地元食材を活用したここだけのメニューやオリジナルスイーツの展開を更に加速させ、食の魅力を強化されたい。また、要望の多い日陰休憩所やベンチについても、エリアごとの状況を改めて見直し、長時間滞在しても飽きず、疲れずに過ごせるサービスの拡充を図っていただきたい。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、広報媒体の刷新としてチラシの両A面化を行い、公園が持つ多様な売りを一目で直感的に伝える工夫を行った点が評価できる。また、プロカメラマンによる宣材写真やドローン動画の撮影を年間を通じて計画的に実施し、春・夏・秋それぞれの季節の魅力を高品質なビジュアルで記録・蓄積する体制を整えたことは、今後の広報戦略における大きな資産となる。ウェブサイトやチラシでのイベントカレンダー掲載による情報の見やすさ向上と合わせ、利用者の視点に立った分かりやすく訴求力の高い広報活動が展開された。X（旧 Twitter）、Instagram 運用・更新についても、目標値 60 回に対して 224 回と目標を大きく上回る運用がなされている。

今後は、今年度蓄積したこれらの高品質な画像・映像資産を、ウェブサイトや紙媒体などの既存メディアにとどまらず、SNS 等でより戦略的かつ多角的に活用することが望まれる。特に、ネモフィラ、ヒマワリ、コスモスなど、若年層に響く SNS 映えするコンテンツについては、ドローン映像等を活用したショート動画の配信や、開花状況に合わせたタイムリーな情報提供を強化されたい。併せて、来園者自身による投稿・拡散を促すハッシュタグキャンペーン等の仕掛けも検討し、認知拡大から実際の来園へとつなげるデジタルマーケティングの視点を取り入れた広報展開を期待する。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績においては、月次ごとの収支管理を徹底し、いずれの項目も目標を達成している。マルシェの出店料を従来の定額制から売上に応じた販売手数料制へ移行し、過去最大規模の出店数と増収を達成（令和 7 年 5 月度実績 14.6 万円、令和 5 年度比 557% 増）したことは、運営の稼ぐ力を示す大きな成果である。また、イベント運営協力金の導入により 70 万円以上の収益を上げたほか、花の美術館団体バス駐車場の有料化を行い、それを展望塔への誘客につなげ、目標搭乗者数を上回る 26,530 人を達成するなど、戦略的な収益確保策に取り組んだ。加えて、展望塔望遠鏡の単価改定や増設、卓球の有料化、南北ロータリーの貸出料金制導入など、既存資産や未利用スペースを収益化し、受益者負担の適正化を進めつつ予算を上回る利益を確保した経営努力は高く評価に値する。

今後は、今年度確立したこれらの新たな収益モデルを一過性のものとせず定着させることが重要である。引き続き有料プログラムの体系見直しや付帯施設の単価適正化を進めるとともに、単体のサービス提供にとどまらず、複数のコンテンツを組み合わせたセット販売の検討を進められたい。例えば、「卓球利用とカフェのドリンクセット」や「花の美術館入館と体験プログラムのセット」など、利用者が園内で複数のサービスを利用したくなる仕掛けを作ること、客単価の向上と滞在時間の延長を図ることができる。確保した収益を公園の魅力向上へ確実に還元し、好循環をより強固なものとしていただきたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績においては、重大事故『0』の継続や日常的な点検の徹底に加え、長寿命化の観点からの計画的な維持管理、危機管理体制等、おおむね目標どおりに行われており、安心・安全に配慮した施設環境が安定して提供されていると評価できる。広大な敷地における移動の課題に対し、セニアカーの貸し出し運用や、次世代モビリティ「WHILL」の試験導入を行うなど、ユニバーサルデザインの観点から利用者の移動利便性の向上にも積極的に取り組んでいる。また、どこよりも美しい状態を目指して園内ベンチの塗装・整備を徹底し、来園者が安全かつ快適に休憩できる環境品質を維持した点は、ホスピタリティの表れとして高く評価できる。

広さは公園の強みである反面、高齢者や子供連れにとっては移動の負担にもなり得る。今後は、導入したモビリティの定着・拡大に加え、ソフト面の案内誘導の強化が課題となる。具体的には、車椅子利用者、ベビーカー利用者、ペット連れなど、多様な利用者の視点に立ち、それぞれのターゲットに適した推奨ルート（例：「段差なしルート」「ペット満喫ルート」「短時間集中コース」等）をマップやウェブサイト等で明示するなど、休憩ポイントの可視化や路面状況の案内も含め、誰もがストレスなく広大なフィールドを回遊できるような情報のバリアフリー化を一層推進していただきたい。